

令和5年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（肝炎等克服政策研究事業）  
「多様な病態に対応可能な肝疾患のトータルケアに資する人材育成及びその活動の質の向上等に関する研究」 分担研究報告書

## 非ウイルス性肝疾患の多い沖縄県で活動する肝炎医療 Co の支援に関する研究

研究分担者：新垣伸吾 琉球大学病院 第一内科 特命講師  
研究分担者：前城達次 浦添総合病院 肝臓内科 副部長  
研究分担者：島袋尚美 公立大学法人名桜大学 人間健康学部 看護学科 准教授

**研究要旨：**沖縄県は肝疾患死亡率が全国一高く、その要因は主に飲酒や生活習慣病に関連した肝疾患である。肝疾患患者が適切な医療や支援を受けられるためにも、適切に情報提供し、受検、受診、受療を推進する肝炎医療コーディネーター(肝 Co)の存在が貴重である。沖縄県は新型コロナウイルス感染症蔓延の影響もあり、令和2年度以降開催されてなかった肝 Co 養成講座が令和5年度から再開され、これまで260名の肝 Co が認定されている。様々な職種の肝 Co 同士がお互いに連携し情報共有していきながらスキルアップを図っていくことが地域住民の健康維持に寄与し、肝疾患を減らすことにつながると考えられる。本研究では、肝 Co の活動状況を把握して、肝 Co の育成の推進を支援するよりよい方法を見つけていくことを目的とした。結果、肝 Co 同士の連携に SNS を利用して、肝疾患にかかわるメディカルスタッフの会を定期的に Web 開催することで、離島の肝 Co も含め情報共有ができ、様々な事例を検討する場にもなって有用であることがわかった。地域や離島へ肝臓専門医が出向いて講演会や相談会の場を持つことがコロナ禍では少なくなっていたが、今後徐々に増やしていき肝 Co のスキルアップへつなげていきたい。

### A. 研究目的

沖縄県は肝疾患死亡率が全国一高く、その要因は主に飲酒や生活習慣病に関連した肝疾患である。肝炎医療コーディネーター(肝 Co)として、肝炎ウイルス陽性者を拾い上げ、適切な治療につなげていくことの対応に加えて、飲酒を含む生活習慣の改善、脂肪肝への対応も重要である。保健師、看護師をはじめ様々な職種の肝 Co が存在するが、どのように活動してよいか悩むことが多く、肝 Co 同士の連携をして情報共有をしていくこと、その環境づくりを含め支援していくことが重要と考えられた。肝 Co の活動状況を把握して、課題を確認し、今後の肝 Co の育成や活動に資することを目的として肝 Co の実態調査を行った。

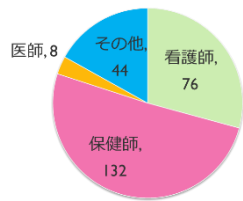
### B. 研究方法

- 1) 沖縄県の肝炎 Co の配置に関する調査を県からの情報をもとに検討した。
- 2) 肝 Co 同士の連携をはかり、情報共有や事例検討をする活動について検討した。
- 3) 肝 Co 活動の課題を挙げその解決策を検討した。

### C. 研究結果

- 1) 沖縄県では R5 年度までに合計 260 名の肝炎 Co が認定されている(R2, R3, R4 年はなし)。肝炎 Co の職種は複数あるが、保健師が一番多く、次いで看護師だった。近年は薬剤師や栄養士、理学療法士、ケースワーカー、また患者さんも養成されている。

年度	認定数
H25	26名
H26	33名
H27	40名
H28	38名
H29	43名
H30	22名
R1	39名
R5	19名
合計	260名



2) 肝疾患診療連携拠点病院に勤務している肝 Co が、肝 Co 同士での情報共有や相談の場を目的とした「肝疾患にかかわるメディカルスタッフの会」を立ちあげ、さらに沖縄県肝疾患サポートLINEグループを作成して運用している。メディカルスタッフの会は Web 開催しており、離島地域や本島北部地域など遠方で勤務している肝 Co も参加しやすくなっている。その場で悩んでいる事例の検討、肝臓専門医からの情報提供も行い有用である。また沖縄県で多いアルコール性肝疾患に併存しているアルコール依存症への対応についても依存症専門医療機関の医師と繋がりを持つことができ、依存症患者の病診連携ができるようになった。

肝疾患にかかわるメディカルスタッフの会

肝疾患にかかわるメディカルスタッフの会

肝疾患にかかわるメディカルスタッフの会

3) 上記のメディカルスタッフの会を通して情報共有や事例検討できるのは有用であるが、開催時間が業務と重なり参加できないことや、会の時間が限定されている(1時間半程度)こともあり、さらなる質問をしたりディスカッションしたりしたいという意見もある。事前アンケートでディスカッションしたいことや質問事項を伺い、事後ア

ンケートで感想や意見を聞いてよりよい会にするように努めている。沖縄に多い飲酒を含む生活習慣に関連する肝疾患患者への対策も一筋縄ではいかないケースが多く、それぞれの地域、立場で多くの肝 Co の方が悩まれていることがわかった。コロナ禍ではできなかったが、実際に地域や現地に向向いて肝 Co と顔を合わせてディスカッションする機会を増やしていくようにしたい。

#### D. 考察

沖縄県で肝 Co は令和 5 年度までに 260 名が認定された。認定されたものの実際にどのように活動をしていけばよいか悩んでいるという声も多い。特に離島や本島北部地域は肝臓専門医も少なく、地域の肝 Co も相談できる場もなかなかなくて、地域住民の肝疾患対策が不十分になっていた現状がある。今回の「肝疾患にかかわるメディカルスタッフの会」と沖縄県肝疾患サポートLINEは肝 Co 同士の連携のみならず、肝 Co と医療機関、さらに肝臓専門医との連携にも大きく寄与している。肝 Co が継続して活動できるような連携体制という観点でもこの取り組みは有用であると考えられる。また肝臓専門医の医師のみならず、アルコール性肝疾患で多く併存していると思われるアルコール依存症の患者を診ていただける医師とのつながりも持て病診連携を進めていけるようになったことも大きな収穫であった。平成 5 年度は 4 年ぶりに肝 Co が養成されたが、今後離島の肝 Co も含め連携を強化しながら肝 Co の活動を支援していけるように取り組んでいきたい。

#### E. 結論

肝 Co の活動をしていく上で、医療機関との連携、肝 Co 同士も連携して情報共有や事例検討などを継続的に行っていくことが大切であることがわかった。相談しやすい環境づくりも含め今後も肝 Co の活動を支援していき、その地域に向向いて顔を合わせて

の研修会、相談会も重ねていくことで肝 Co のスキルアップにもつなげていけるようにしていきたい。また、肝炎患者等の適切な受検・受診行動に結びつくよう、肝炎医療コーディネーターの活動を補助する資材作成について検討していきたい。

## F. 政策提言および実務活動

<政策提言>

なし

<研究活動に関連した実務活動>

第 1 回肝疾患にかかわるメディカルスタッフの会 講演「脂肪肝について」

第 2 回肝疾患にかかわるメディカルスタッフの会 講演「B 型肝炎について」

第 3 回肝疾患にかかわるメディカルスタッフの会 講演「C 型肝炎について」

## G. 研究発表

第 122 回日本消化器病学会九州支部例会／  
第 116 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 抄録集 p 75

特別企画 患者さん視点で消化器診療の一翼を担う「メディカルスタッフゆいまーる」～沖縄からの発信～ 司会：江口有一郎 砂川綾美 特別発言：八橋 弘

「モチベーション維持を目指したメディカルスタッフ向け研修会への取り組み」

中山美樹 砂川綾美 田端そうへい 新垣伸吾 前城達次

「肝疾患の成因が特徴的な地域である沖縄県におけるメディカルスタッフへの支援について」

前城達次、新垣伸吾、田端そうへい、山本和子、砂川綾美

新垣伸吾、田端そうへい、砂川綾美、前城達次、離島医療における肝炎医療コーディネーターの活躍への期待と課題. 肝胆膵 88(2):193-199, 2024.

## H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし